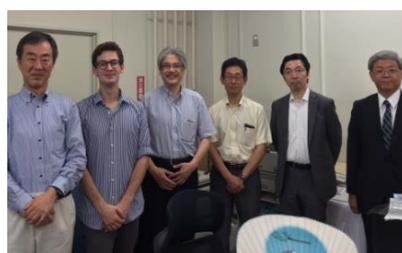
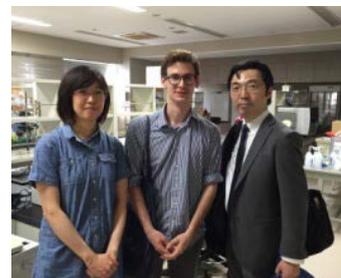


IRIDeS 災害と健康ユニットによる熊本地震対策に関して熊本大学、医療関係者との現地打合せを行いました（2016/6/17-6/18）

テーマ：熊本地震、災害医療

場所：熊本県

平成 28 年 6 月 17 日から 18 日、当研究所「災害と健康ユニット」の富田博秋 教授（災害医学研究部門 災害精神医学分野）、栗山進一 教授（災害公衆衛生学分野）、千田 浩一（災害放射線医学分野）、児玉栄一 教授（災害感染症学分野）とアレッサンドロ・マッツァ氏（研修生）が、熊本地震対策中長期フェーズへの移行に伴い、熊本県における熊本地震の地域住民の医療保健、健康状態への影響、復旧・対応の現状を把握すること、東日本大震災における取り組みの中で培った経験、知識、教訓を熊本大学や熊本県の医療保健従事者にお伝えすること、熊本大学と連携し、熊本地震からの復旧、復興、医療保健支援に取り組む熊本大学や熊本県の医療保健従事者を後方支援する可能性を検討すること、熊本地震における災害医療対応のあり方の振り返りの検証を行うこと等を目的に、熊本を訪問しました。訪問中、熊本大学医学部長・西村泰治 教授との面談（写真上左）、熊本大学大学院生命科学研究部環境生命科学講座公衆衛生学分野 加藤貴彦 教授（写真上中）、同仁グローバル社、産業医科大学 盛武 准教授、熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学分野・文東美紀 准教授（写真上右）、八代更生病院 副院長 安川節子 先生、社会医療法人ましき会益城病院 事務次長 宮崎翔氏（写真下左）、熊本大学医学部附属病院神経精神科池田学前 教授、橋本衛 准教授、熊本大学保健センター 藤瀬昇 教授（写真下中）、熊本大学大学院 環境社会医学部門 看護学講座 前田ひとみ 教授、医学部 感染免疫診療部 満屋裕明 教授、中田浩智 講師等との面談・打合せや被災現地の視察（写真下右）を行いました。熊本地震は前震、本震による直接の建物被害だけでなく長引く余震による地盤への影響もあり、住民の不安を長引かせていると思われること、熊本大学医学部も建物、機材への被害が大きく、研究・教育活動に影響を及ぼしていること、地域医療体制の普及・復興が喫緊の課題であること、県と大学と同門医療機関が連携して、中長期メンタルヘルス支援体制構築が進んできていること等の状況を伺いました。東日本大震災の医療保健、医学研究面での経験を熊本地震からの復旧・復興に活かしていくうえで、熊本大学と東北大学の連携が望まれることが確認され、今後、熊本での共同シンポジウム開催を含め具体的計画を進めること可能性を含め連携が検討されました。



文責：富田博秋・栗山進一・千田浩一・児玉栄一・アレッサンドロ・マッツァ
 （災害医学研究部門・災害と健康ユニット）